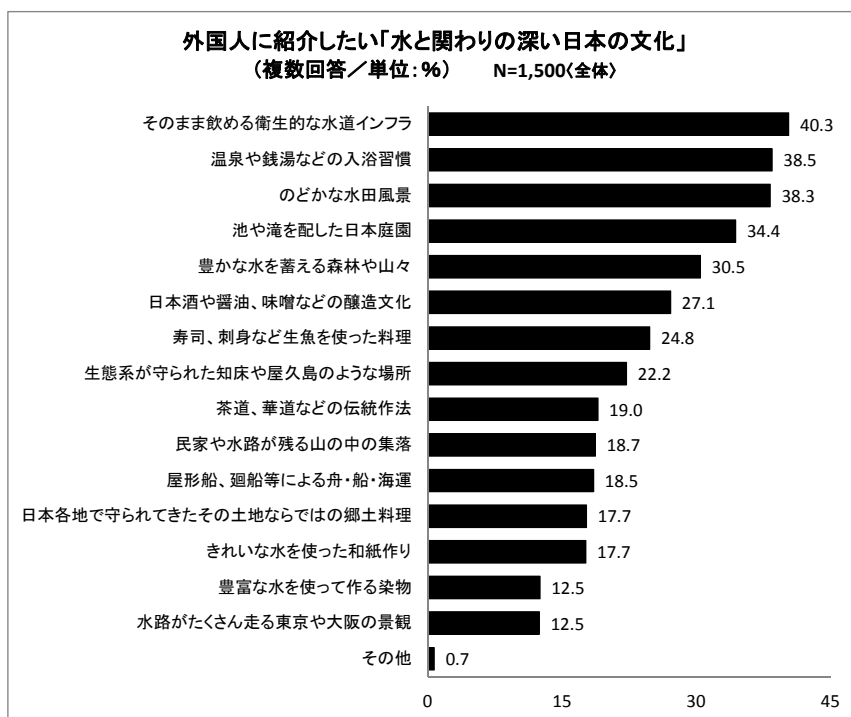


◇外国人に紹介したい水文化も、同じく「水道インフラ」が1位

次に、同様の選択肢で「外国人に紹介したい水と関わりの深い日本の文化」を聞いてみると、こちらも「水道インフラ」(40.3%)がトップとなり、2位「入浴習慣」(38.5%)、3位「水田風景」(38.3%)でした。多くの人が自然や伝統ある水文化というより、「そのまま飲める衛生的な水道インフラ」といった日本の技術力を、海外に対して誇れるものとして捉えているようです。



日常の水意識／東京・大阪・中京圏

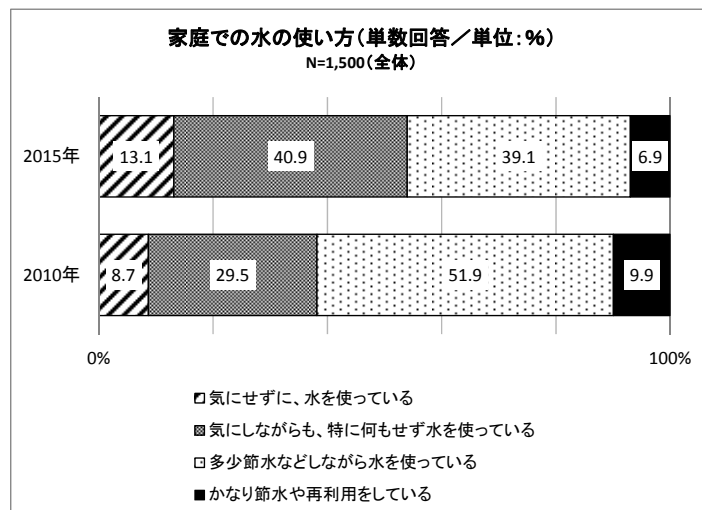
Q.水の使い方は？ (4択)

◇節水している人が半数割れ

5年前との比較で、15.8ポイント低下

「家庭における水の使い方」は、ここ数年、節水を行っている人の割合が低下の一途をたどっています。今回も、「かなり節水や再利用をしている」人が昨年から2.7ポイント減の6.9%、「多少節水や再利用をしている」人が3.0ポイント減の39.1%で、この両者を合計した「節水を行っている人」は46.0%と半数を割り込み、節水意識の低下は止まりませんでした。

近年の節水意識の低下度合いを測る目安として、5年前(2010年)と今年の結果を比較したところ、2010年は「かなり節水や再利用をしている」人が9.9%、「多少節水や再利用をしている」人が51.9%、両者を合計した「節水を行っている人」は61.8%となり、この5年間で15.8ポイント低下しました。



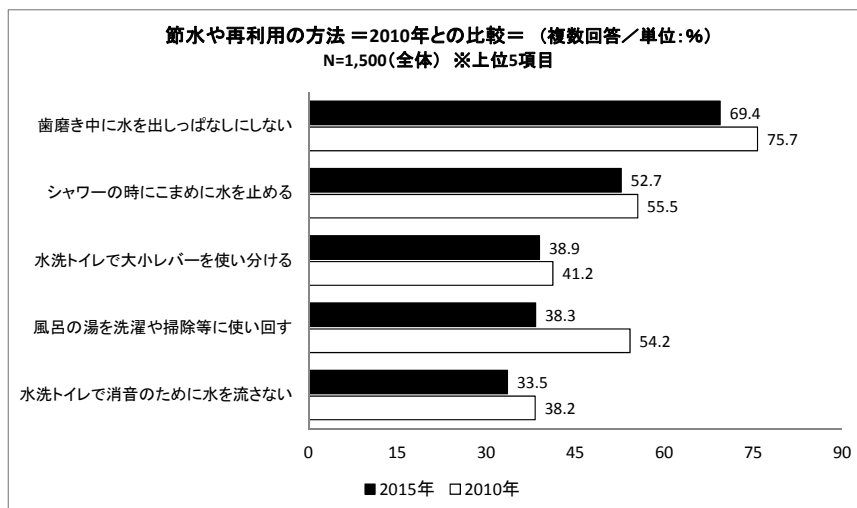
Q 節水や再利用の方法は？（12択＋その他＋特にやっていない）

◇トップ3は、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」
3位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」
5年前との比較で上位の項目は同様も、各項目の数値が低下

「節水や再利用の方法」について聞いたところ、トップ3は、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（69.4%）、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」（52.7%）、3位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」（38.9%）となり、4位「風呂の湯を洗濯や掃除に使い回す」（38.3%）、5位「水洗トイレで消音のために水を流さない」（33.5%）と続きました。

今回の結果を2010年と比較したところ、2010年は1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（75.7%）、2位「シャワーの時にこまめに水を止める」（55.5%）、3位「風呂の湯を洗濯や掃除に使い回す」（54.2%）、4位「水洗トイレの大小レバーを使い分ける」（41.2%）、5位「水洗トイレで消音のために水を流さない」（38.2%）と、トップ5は順位こそ異なるものの、すべて同じ項目でした。しかし、各項目の数値に目を向けると、「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」は6.3ポイント差、「風呂の湯を洗濯や掃除に使い回す」では15.9ポイント差など、いずれも2015年の数値が2009年を下回りました。

近年の節水意識の低下とともに、節水方法の種類（節水の取り組み率）も減少してしまっているといえそうです。



参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、食酢の醸造を社業の中心としてきました。食酢の醸造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、「使いながら守る水循環」を学ぶ市民参加型ワークショップ「里川文化塾」の実施など、様々な活動を行っています。「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。